

第26回 日本外来小児科学会年次集会 市民企画講座

みんな地球に生きる人

～世界の子どもにワクチンを～

日時：平成28年8月28日（日）15：00～16：10

場所：サンポートホール高松 3階 大ホール

主催：第26回 日本外来小児科学会年次集会

協力：香川県ユニセフ協会

内容：

15:02～16:10 みんな地球に生きる人 ～世界の子どもにワクチンを～

○講師：アグネス・チャン（歌手、エッセイスト、教育学博士）

○座長：永井崇雄（永井小児科医院）

○はじめに

- ・私も子ども3人、男の子を育て、長男が盲腸、入院をし、小児科にはお世話になりました。
- ・私の姉は小児科の先生で、香港で開業しています。夜中にも呼び出され、大変です。
- ・みなさま、身体に気をつけて、これからもよろしくお願いします。

- ・高松に来られたことがうれしいです。うどんの食べ歩きもしました。
- ・うどん屋めぐりの6軒目では、うどんが出てきても、なかなか・・・
- ・最後は6人で一つのうどんをたのみ、お店のおばさんは「この家族は大丈夫か」と心配していました。

○みんな地球に生きている人

- ・自分のことだけで、まわりにどんな人が生きているのかを気がつきません。
- ・私はボランティアで、いろいろな人と出会うことが出来、いろいろなことに気づきました。



○副題 世界の子どもたちにワクチンを

- ・世界の子どもたちのワクチンの状況を話します。
- ・5歳以下の子どもの死亡の原因は、予防接種を受けられないことが大きな原因です。
- ・いろいろな取組で5人に4人は予防接種を受けられるようになったが、5人にひとりには予防接種を受けられない。東南アジアやインドに主にいます。
- ・ユニセフが、予防接種を受けることの40%を担っています。2019年までに10人に9人が予防接種を受けられるようにしたい。
- ・発展途上国でも、予防接種の大事さがわかったので、自国のお金で予防接種を打つようになってきています。
- ・予防接種の薬を確保することが大切になってきます。ユニセフでは、出来るだけ安く、出来るだけ安全に、予防接種を確保するよう努めています。
- ・しかし、「予防接種で熱が出た」などの噂が流れ、予防接種に来てくれません。
- ・一軒一軒まわって、予防接種を受けに来てもらえるようお願いに行きます。

○生ワクチン

- ・生ワクチンですから、冷蔵して保管しておかなければならないし、運搬もアイスボックスで運

ばなければなりません。車や自転車が入れないところには、人力で運んでいきます。この運搬の流れを「コールド・チェーン」とよびます。

- ・電気がないところでは、太陽光発電を使うなど、いろいろな知恵が必要。

○注射する人が必要

- ・メディカルアシスタントを育て、村に派遣する。
- ・子供が産まれたらすぐにワクチンを受けられるという状況にない。
- ・今でもワクチンを受けられずに、20秒に一人の子どもが亡くなっている。
- ・ポリオ、三種混合ぐらいしか受けられないのが現状。

○私は6人兄弟の4番目

- ・私の母親は9回妊娠し、7人生きて生まれて、姉が一人亡くなり6人の子ども。
- ・私は、6人兄弟の4番目。
- ・590万人が5歳以下でなくなる。戦時中の国、貧困の国、南アフリカ、インド、バングラデッシュ・・・
- ・多くの子どもは下痢でなくなる。清潔な水がないから。
- ・インフルエンザで亡くなる。
- ・戦争が起きると、ワクチンのプログラムは大変。
今日は「予防接種の日」の為に、停戦にしてください。これがうまくいっている国もある。
- ・戦争になると子どもたちの死亡が一気に増えます。
- ・赤ちゃんの頃に何人も亡くなった経験のある母親は、たくさんの子供を産みます。「何人生き延びるかわからない。夫もいつ死ぬかわからない。若いうちに子供を産んでおかないと」と。

○子どもたちを守る最低限の二つの条件

- ①「平和」
- ②「最低限の生活」 元気で食べていられること

○子どもは比較しないで

- ・私は、6人兄弟の4番目。真ん中の子は忘れられやすい。
- ・私は二人の姉といつも比べられた。長女は顔が優秀、次女は頭が優秀。大学の医学部に進み一番で卒業し、新聞にも載った。
- ・「顔も似てない」、「頭も似てない」とみんなに言われ、「アグネスを妊娠しているとき、生活が苦しかったのよ」。
- ・子どもは比べてはいけない。抱きしめてあげる。
- ・年をとって、長女の顔も私と同じぐらいになってきました。
次女も、あと10年もすればボケが出てきて、私の頭と同じぐらいになります。
子どもは比較しないでも大丈夫です。

○ボランティアに参加して

- ・子どもの頃にボランティア活動、2回バスを乗り換えて、山道を40分歩きました。
- ・目的地に到着すると、「お姉さんやってきたよ」と大きなかけ声をかけてくれると、40人の子どもたちが集まってくれた。足のない子、手のない子、手も足もない子・・・

- ・サリドマイド つわりが治るということで妊婦が薬を飲み、その子どもたちを香港では集めていた。
- ・**当たり前と思っていたことが、当たり前ではない。**腕がない子は箸でご飯を食べられない、足のない子は走れない、手も足もない子は寝返りをうてない・・・

○自分のことばかりを考えて、自分を不幸にしていた

- ・いろんな方が、一生懸命生きていた。
- ・自分がものすごく恵まれていた子だった。屋根の下で寝ていた、ご飯を食べられた。病気になれば薬を飲めた。
- ・あの子どもたちは道ばたで寝て、食事は腐った残飯でした。
- ・**自分のことばかりを考えて、自分を不幸にしていた。**
- ・大人になって何度も壁にぶつかりましたが、何度もこの方法で解決できました。

○歌手になるきっかけを与えてくれた

- ・食べるものを集めるにはどうしようかと考えた。
- ・昼ご飯の時になると、歌のリストを作り、リクエストの歌を歌い、「食べ物を分けてください」と頼むのです。
- ・14歳の時にスカウトにあい、歌が流行り、歌手になりました。
- ・子どもたちが教えてくれたことが、歌手になることが出来ました。
- ・子供が生まれ、自分より大事なものが出来ると、人間が変わる。ボランティアであった子どもたちが、それと同じ。

○アフリカでの出会い

- ・エチオピア、ソマリア、ナイジェリア、ニジェール、中央アフリカ共和国、スーダン
- ・あの時と同じことが起きている。飢えで人が死んでいくのです。
- ・愛は地球を救う、24時間テレビ 戦時中で危ないので現地に行くのは「ダメ」と。
- ・でも、「エチオピアに行かなくては、説得力がない」と、行かせてもらいました。
- ・「骨と皮だけ」と言いますが、皮は骨にくっついていません。皮がお尻から垂れ下がっている。
- ・本当に骨と皮だけのガイコツのような人は（筋肉がないので）歩けません。
- ・子どもの太ももは私の3本の指ほどの太さしかない。
- ・トラックからこぼれた麦に、子どもたちは一斉に飛びつき、砂と一緒にほおぼるので、口の中は血だらけです。
- ・私が現地にいたあいだにも子どもが亡くなっていく。6人目の子どもが死んだとき、私は食事が出来なくなった。

○理屈だけではダメ、行動が必要

- ・南北問題です。食べ物を残して捨てる北の国、食べ物がなくて飢えて死んでいく南の国。
- ・出来るところからやりなさい。一人がこのぐらい出来る。**理屈だけではダメ、行動が必要。**
- ・日本ユニセフから、「もっとも弱い子どもたちの声になってください」といわれて、ユニセフ大使になりました。

○児童買春

- ・タイ：児童買春、児童ポルノの問題を見にいてくださいと。
- ・30～50%の子どもはエイズに。感染しても発病するまでは客を取られ、発病するとトラックで遠い山へ捨てられてしまう。
- ・中国やカンボジアや、遠方から子どもが買われる。性的対象として女の子だけでなく、男の子も買われます。赤ちゃんも買われます。
- ・日本の児童ポルノ法：最初は、自分で買う、持つことは処罰されなかった。今は、買うことも、持つことも処罰される。世界と同じルールになりました。
- ・児童ポルノの好きな人から、私は殺害予告を受けていますが、子どもたちの権利をどうやって守っていくか考えていく。

○南スーダン

- ・戦中 50数年戦争状態 戦争で大人が少なくなり、子ども兵士
- ・12歳の元兵士 6歳の時にお父さんを射殺され、8歳で軍に入った。
- ・反政府軍 子どもが地雷の探索に使われる。先に歩かされる。仲間割れをし、子ども兵士をたくさん作っている。
1万2千人の兵士のうちの4分の1は子ども兵士。3千人の子ども兵士。

◇反政府軍のトップに会い

- ・「子どもたちを返してください」とお願いすると
- ・「子どもはついてきたのです。お父さんやお母さんが亡くなり、ついてきたのです。私たちは子どもたちを守っているのです」と、とぼけていました。
- ・しかし3ヶ月後、18歳以下の子どもたちは解放してくれました。
- ・ちゃんと受け皿を作れば、もっと解放されるのだろうか。

○中央アフリカ共和国

- ・イスラム系とキリスト系の戦争
- ・男は殺され、女は危害を加えられ、家に火をつけられる。大量の孤児が出来る。

○ガタマラ

- ・「発育障害」 体が発達しないと、知能的な発達もしなくなる。
- ・妊娠からの最初の1,000日間に、十分な栄養を与えよう。妊娠中、出産後5ヶ月は母乳で育てられ、2歳までは食事が出来るようにしよう。
- ・26歳の母親 135cm 二人の子ども、4歳の子どもが標準より10cm小さい、1歳半の子どもが標準より10cm小さい。

○最後に

- ・戦時中の話、病気の話、もっともったしかったです。
- ・保健所や助産婦さんのもとで子供を産まない国、ガタマラもそうです。出産時にお母さんが死ぬ国もあります。出生届を出してもらえない子どもがいます。
- ・やることが、いっぱいあります。
- ・日本も最近母乳が増えたということ、うれしく思います。日本は先進国の中で、母乳を飲ませない国、なおると良いなあと思います。
- ・日本は、10人に一人が低体重児。大きく生んで、元気に育てよう。2500g以上で、産婦

人科と連携して是非是非、実現を。

○天国と地獄

- ・ 丸いテーブルに料理が並んでいる。箸で食べないといけないルール。
地獄：料理を箸で取ると、箸が長いので食べられない。
天国：長い箸で料理を取り、相手に食べさせ、互いに食べさせながら、ハッピーです。
- ・ 心構え一つで、次の時代は天国になれば幸せです

16:05～16:08 歌と手話

- ・ 3人の息子、スタンフォード大学
- ・ 誰もが幸せの種を持っている。その種は、誰かのところにまかないと咲かない。

「しあわせの花」

しあわせの花を咲かそう
心の中にいくつも
ささやかでも私たちは
この世に生まれた花

16:08～16:10 最後に

- ・ 座長の永井先生は、うま年で夫と同年。
- ・ 麻疹は、日本では没滅宣言をした。しかし千葉県で発症。東南アジアに行った人。
- ・ 日本は世界につながっている。世界中の人たちから病気を没滅したい。
- ・ アグネスさんは、ユニセフの日本大使からアジア大使に昇格。

—以上—

